人々を導く

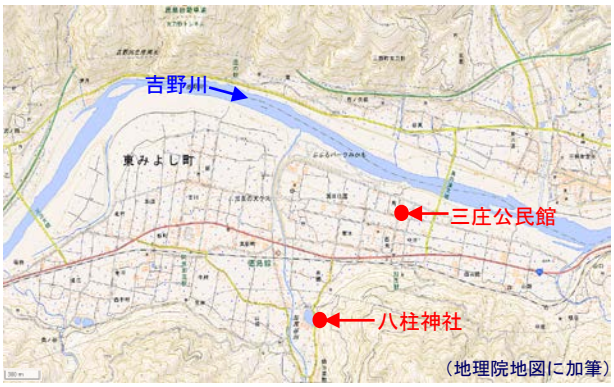
行政に頼ることができない時、人々は自分たちの力で水害に立ち向かってきました。その中心には、この人が言うなら頑張ろうと、多くの人から信頼される人物がいました。徳島県東みよし町と愛媛県四国中央市の例をご紹介します。

■水防竹林と国安邦太郎（徳島県東みよし町）

明治 32 年（1899）7 月の暴風雨により、吉野川が氾濫し、三庄村と加茂村では民家 11 戸が流失し、田畑数十町歩が河原となる被害が発生しました。三庄村長の国安邦太郎は、堤防の築造を関係当局に繰り返し陳情しましたが、実現が不可能だと分かると、村内の有志と相談を重ね、次善の策として吉野川沿いに水防竹林を造成することにしました。村長を筆頭に寄付を募り、住民総出の勤労奉仕で、明治 34 年に竹の植え付けが始まり、明治 40 年に完了しました。延長約 820m、幅 18mの竹林は、大正以降、水防の役割を果たすようになりました。三庄公民館と西庄の八柱神社境内に水防林之碑が建てられています。

＜参考資料：建設省四国地方建設局徳島工事事務所編「吉野川百年史」1993 年など＞

三庄公民館の水防林之碑



■金生川の付替工事と井川隆重（愛媛県四国中央市）

金生川は、もともと川之江の市街地を南北に流れていました。大正元年、昭和 12 年、13 年に市街地が大水害に見舞われたため、川之江町は金生川を予讃線鉄橋付近から西方の大江海岸に付け替えることを決議しました。町長の井川隆重らの熱意と国・県の理解者の協力により、付替工事は昭和 15 年に県直営工事として開始されましたが、戦争のために工事は進みませんでした。町長は町常会で協議した上で、町民に勤労奉仕をお願いし、これにより工事は町民が交替で出て、他町村からの応援も得て行われました。終戦により中断しましたが、戦争中の勤労奉仕のおかげで、工事は昭和 22 年に完成しました。旧河道は埋め立てられて国道 11 号となり、川之江の発展の礎を築きました。四国中央市民会館川之江会館の前庭に「昔ここに川ありき」の石碑が建てられています。＜参考資料：井川隆重「金生川改修史」1978 年及び川之江市誌編さん会編「川之江市誌」1984 年＞

「昔ここに川ありき」の碑